

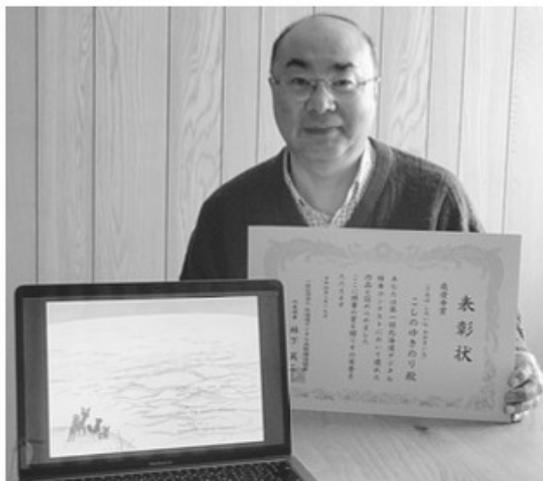
流水との出会い 温かな画風で

手作り絵本愛好家の大山町2の会社員、越野由紀則さん(62)が創作した「うみはしろいなおおきいな」がこのほど、第1回北海道デジタル絵本コンテストで最優秀賞に選ばれた。作品では流水がくるオホーツク海の雄大さと北国の生き物を温かみのあるタッチで表現。「受賞の知らせを聞いて体が震えるほど嬉しかった」と喜びを語った。

コンテストは道内の出版社などで構成する一般社団法人北海道デジタル出版推進協会(＝HOPPA、林下英二代表理事)が主催。コロナ禍を契機に広がりを見せる電子書籍のラインナップに道民手作りの作品を加えるとともに、絵本を通じて道内の自然や文化の魅力を発信しようとして企画した。プロアマチュア問わず中学生以上の道民から未発表作品を募集し、22点の応募があった。

紋別市の越野さん

デジタル絵本コンテスト最優秀に



て、キタキツネが再会を喜ぶ。友情の大切さと地球温暖化で年々勢力が縮む流水が未来へ残り続けてほしいとの思いをメッセージとして込めたという。7枚の原画は全て手描き。パステルを用いて2ヵ月かけて完成させた。

越野さんは道都大美術学部在学中から絵本の創作に励み、一昨年の11月にはこれまで作りためた手づくり絵本を一挙公開する個展を道立オホーツク流水科学センターで開いた。今回コンテストに応募した作品の構想は20歳の頃に概ね完成していたが「いつか形にしたい」と思っていた。募集要件と合致し「今だ」と思って描いたと言う。札幌市中央図書館長や著名画家ら第一線のプロが審査にあたることも魅力的だったという。「今まで独学で絵本を作ってきた。恐ろしさもあったが自らの技量に対する評価を知りたかった」と話す。

審査結果は自らの誕生日に通知された。「受賞できるとは考え初めのデジタル絵本コンテストで最優秀賞に輝いた越野さん

3月19日に同図書館で開かれた受賞式には仕事の都合で出席がかなわなかったが、司書による受賞作品の読み聞かせが行われたという。越野さんの作品は同協会ホームページで公開されているほか、札幌市電子図書館にも電子書籍として寄贈され、会員登録不要で読める。越野さんは「電子書籍ならいつでも、どこでも作品が読める。生まれ育った紋別の自然の豊かさを多くの子どもたちに伝えられたら」と思いを語る。

その上で「受賞は自信につながった。これからも自由な発想で創作を続けたい」と決意を新たにしている。

同協会は札幌市以外の市町村が運営する電子図書館にもコンテスト入賞作品の電子データを寄贈することを検討しており「市民作家が創作した北海道の自然や文化などの魅力を表現した絵本の創出に今後も努めたい」としている。

北海民友新聞
2022年4月6日(水)